

Share Happy シェアハピ！

4月が終わろうとしています。毎日終われるように仕事をし、なんとか乗り切ったという方も多いのではないのでしょうか。私はワンちゃん(豆柴)を飼い始めたことにより、毎日一秒でも早く帰って餌をあげるというミッションを課せられています。誰かのために働くと、人は強くなれるということを実感した4月でした。

今回は5年生が学年で取り組んでいる一筆箋の実践について紹介します。

【目的】

- ・子供との信頼関係をつくる
- ・保護者との信頼関係をつくる
- ・子供の良い行動を強化する
- 学校と家庭から同時に褒められることで、次の日もがんばろうとします。

【準備するもの】

- ・一筆箋(買わなくても、データや手書きを印刷すればOK)
- ・名簿

【流れ】

- ・子供の良いところを見つけたら、名簿に書き留めておく
- ・その日のうち(遅くとも次の日)に一筆箋に書く
- ・子供を呼び、一筆箋を読み上げて「お家の人にも褒めてもらってね」と渡す

【副次的なメリット】

- ・普段目立たない子に対しても、良いところを探すアンテナが高くなる
- ・所見のメモとしても活用できる

【注意点】

- ・渡す枚数に大きく差が出ないようにする。

【文例】

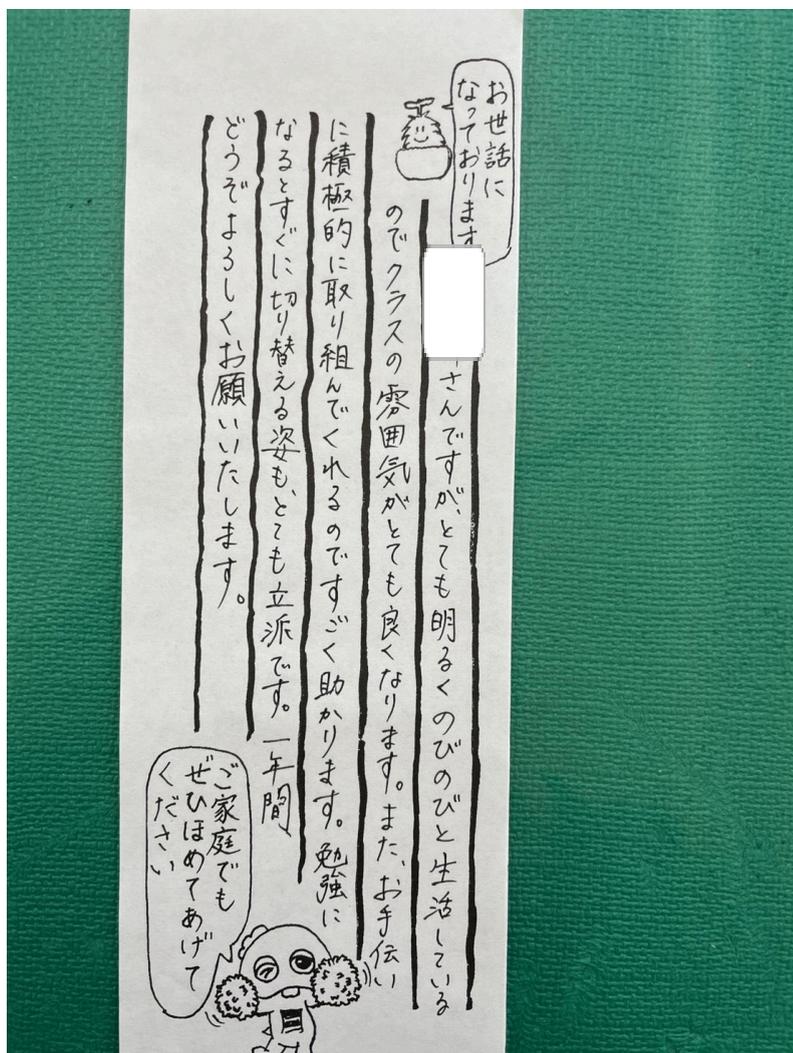
・いつもお世話になっております。先日の学級会で〇〇さんが司会を一生懸命がんばっていただきました。友達の意見をよく聞いて意見をまとめることができ、感心しました。ぜひご家庭でもほめてあげてください。葛原

※下線部は定型文です。実質書くのは二文程度にしています。

私は所見の内容を前倒しをして書いているイメージです。通知表の所見欄は、子供の頑張りを家庭と子供自身と共有することが目的のはずなのに、1か月や2か月前のことを書かれていても鮮度が落ちてしまっています。「褒めるのも叱るのも鮮度が命」というのが生徒指導の鉄則です。また、実践してみると、子供以上に保護者が喜んでくれることがわかります。保護者との良好な関係づくりは学級経営上も非常に大切です。ぜひ、子供が頑張ったことを実感できるうちに、一筆箋を書いてみてはいかがでしょうか。

※葛原が作った一筆箋で良ければ、葛原の隣の机に印刷して置いておきます。ご自由にお持ちください。

←花岡先生の一筆箋



Share Happy シェアハピ！

今回は、いじめの未然防止、児童の自己有用感の向上、学級の人間関係作りに効果が期待できるアクティビティを紹介します。

【準備するもの】

- ・裏紙(A4やB5サイズを4等分したくらいのサイズでOK)
- ・模造紙(なくても可)
- ・セロハンテープ

【必要な時数】

- ・2時間(学活)

【活動の概要】

- ①子どもがくじで引いた人(以下、「秘密の友だち」)の良いところを、1週間で3つ探す
- ②「秘密の友だち」の良いところを見つけたらその都度紙に書き、見つからないようにして模造紙等に貼っていく
- ③1週間後、秘密の友だちに書いてもらった紙を一斉に開く。
- ④背中に手形を書いた紙を貼り、指の部分に友達同士でその人の良いところを書く。
※この時、「秘密の友だち」には必ず書くようにすると、筆跡で誰が秘密の友だちだったかがわかる。らしいですが、わからないことも多いです。



【詳しい活動の流れ】※葛原のやり方なので、やりやすいようにアレンジしてください

(1) 1時間目

- ①裏紙に一人一人自分の名前を書き4つ折りにする(名前が隠れればOK)
- ②名前を書いた紙を回収し、まぜる
- ③一人ずつ名前の紙を引く
→自分の名前を引いたらすぐに引き直す
- ④周りの人に聞こえないように先生に誰の紙を引いたか教える
※教員が把握しておく、後で書けていない子に声かけができます。
- ⑤人数分にマスを割り振った模造紙に自分の名前を書く

(2) 休み時間

- ①「秘密の友だち」の良いところを見つけたら紙に書いて貼る
→書けていない子がいたら個別に呼んで一緒に書くようにする

(3) 2時間目

- ①模造紙から紙をはがし、一斉に見る
- ②白紙に自分の手の形をかたどる(ワークシート)
- ③背中にワークシートを貼る
- ④友達同士で背中の紙に良いところを書き合う
- ⑤振り返り

【指導上の留意点】

- ・目的をはっきりさせて指導する。

→1時間目の最初と2時間目の振り返りの時に「自分の長所に気付く」「友達と長所を伝え合う」など、目的を確認したほうが良いです。特に振り返りの時は、「自分の秘密の友達は誰だったのか」を探しがちです。目的に立ち返るようにしましょう。

- ・ワークシートに良いところを書いてもらえない児童を絶対に出さない。

→友達の良いところを探す系の活動は、終わった後に全員がハッピーな気持ちで終わることが重要です。「全員の5本指に良いところを書こう」という、クラスとしての目標を立てて活動させると、活動後「全員の良いところをこんなに書けることが素晴らしいね」と、クラス全体を褒めることができます。

昨年度は2年生で取り組みましたが、【活動の概要】②「休み時間に秘密の友達の良いところを書いて貼る」という活動につまづく児童がいました。

- ・自分が引いた秘密の友達を忘れる
- ・書くタイミングがわからず放置

という状態になりがちです。読書タイムや、休み時間などに個別に声をかけることが大切です。その支援できれば、上手に流れると思います。

やってみたいけど不安...

もう少し詳しく知りたい...

という方は、葛原までお気軽にお聞きください。また、ドライブの「④研修」→「その他」で5-1の活動の様子を動画で見ることができます。(少しだけですが...)

【2時間目】

- ①模造紙から紙をはがし、一斉に見る

https://drive.google.com/file/d/1BX_8s5NsJPD28bp6wKUgi-0q9L2BIPcZ/view?usp=sharing

- ④友達同士で背中の紙に良いところを書き合う

https://drive.google.com/file/d/1BY1hMzT_uLOs3R56_3jleDdYha84kLSq/view?usp=sharing

- ⑤振り返り

https://drive.google.com/file/d/1BY1hMzT_uLOs3R56_3jleDdYha84kLSq/view?usp=sharing

終わった後にクラスの雰囲気は絶対に良くなるお勧めの実践です。ぜひお試しください！

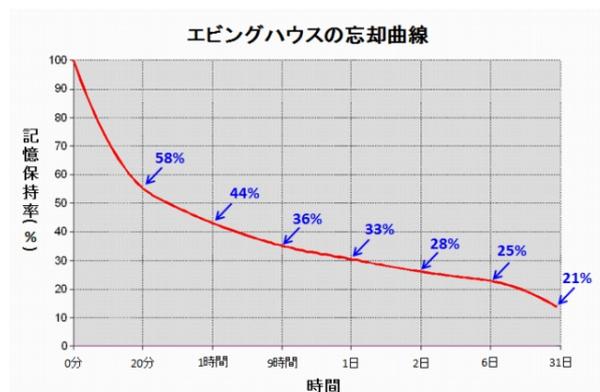
Share Happy シェアハピ！

【テストを溜めない丸付け術】

仕事を効率的に進める上で大切にしていることが、「仕事は打ち返す」ということです。これは個人差があることだと思いますが、私は「後でやればいいや」と思ってしまふとその仕事を忘れてしまったり、後になって慌ててやることになってしまふるので、できる限り仕事を溜めないことを心がけています。特に、テストの丸付けは溜めて良いことはありません。今回はテスト時間内に丸付け→返却→解説までできるテストの丸付け方法を紹介します。

【時間内で返却するメリット】

- 子供の記憶が新鮮なうちにフィードバックができる。



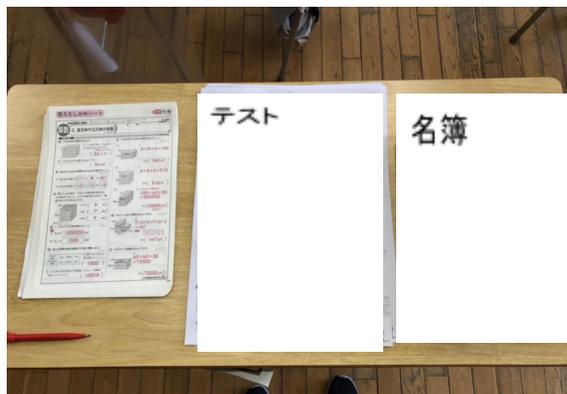
エビングハウスの忘却曲線というグラフを見たことはあるでしょうか。時間の経過と記憶の保持を示したものです。人が何かを暗記したとして、20分後には、覚えたことの42%を忘れていくというグラフです。子供の学習すべてがこのグラフに当てはまるわけではありませんが、子供の記憶が新鮮なうちに復習をするのが重要だということがわかります。

- 欠席の子を待たなくてすむ

これは教員側の都合ですが、テスト当日に休んだ子がいた場合、返却のタイミングをのがしてしまうことはありませんか？テストは溜めずに返したほうが、教員のストレスも軽減される気がします。

【丸付けの仕方】

①机上のポジショニング



机の上には

- ・児童用の解答
- ・子供が提出したテスト
- ・点数転記用の名簿

を置いておきます。

スペースがかさばるので、教員用の解答は使用していません。

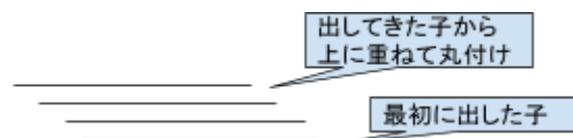
②点数の転記

点数も自分がわかればそれで良いので、細かく書く必要はありません。私の場合、片面満点はチェック、両面満点の場合は棒線にしています。また、50点は「5」、90点は「9」など、きりのいい数字は十の位だけ、まれに見る1桁の点数は数字を○で囲っています。(5点なら⑤)

	知	思
葛原	・	45
記原		
北條	4	4

③上に重ねて丸付け

テストは、終わった児童から提出させています。持ってきた児童のテストから丸付けをしますが、丸付けが途中でも次の児童が持ってきたら上に重ねていきます。子供には最初のテストの時に「来た順に丸付けをするけど、途中でも上に重ねて丸付けするから、最初に出した子が、一番最後に返却されることもあるよ」と事前に説明しておきます。



④子供の待ち方

テストを提出する前に以下の指導を必ずしています。

- ・自信がない問題にはマークをつけておくこと
- ・提出前に必ず見直しをすること
- ・単位ミスや誤字などのケアレスミスは絶対に無ないように注意すること

その上で、子どもたちは

- 1 終わったら提出
- 2 子供用の解答を持って席へ戻る
- 3 自分がチェックをした問題の解答・解説を確認し、呼ばれるまで待つ
- 4 呼ばれたらテストを取りに来る

という流れで、必ずテストを終えた直後にテストの復習をするようにしています。

⑤テスト後

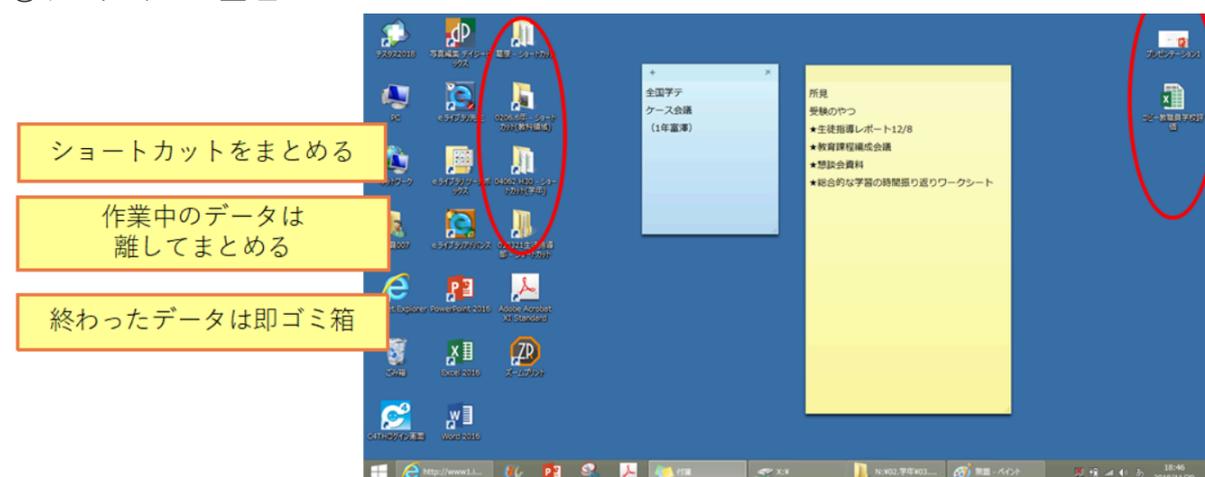
授業開始直後にテストを始められると、だいたい5分程度解説の時間を取れます。子どもたちは解答が手元にあるので復習はできていますが、改めて間違いが多かったところを全体で確認します。また、テストの日は必ず自学ノートにテスト直しと感想を書くことを宿題にしています。24時間以内に10分程度の復習をすることにより記憶の定着率が高まると言われているため、テストの時だけでなく、テスト後にしっかりと復習をするようにしています。

葛原の丸付け方法を紹介しました。単純に仕事を溜めないだけでなく、子供へのフィードバックを考えて今の方法に落ちついてきました。きっと先生方それぞれが丸付けの仕方になにかしらのテクニックをもっていると思います。ぜひこれをきっかけに学年等で話題にあげてみてはいかがでしょうか。

Share Happy シェアハピ！

【整理整頓テクニック】

①デスクトップの整理



「デスクトップはその人の頭の中を表してるよね」と、昔先輩が言っていてなるほどと思ったことがあります。私がデスクトップで意識している点は4つ

- ・よく使うフォルダのショートカットを3つ～4つ(自分用フォルダ、学年フォルダ、分掌フォルダ)を片側にまとめる。
- ・作業中のデータはデスクトップの反対側にまとめて貼り付け、どの仕事に手をつけているか可視化できるようにする。
- ・仕事が終わったらデスクトップのデータはすぐにゴミ箱に捨てるようにする。
- ・付箋やメモ帳はデスクトップに出しっぱなしにして、年間の反省を打ち込むと次年度の反省や引継ぎ時に「なにがあったっけなあ...」と思いつく手間が省けます。

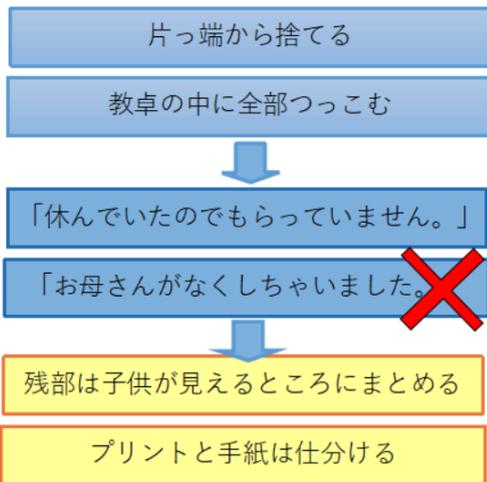
②教務手帳はバインダーに一括管理



教務手帳は、販売されているものも良いのですが、バインダーに紙ベースを綴じて自分が使いやすいようにカスタムしています。バインダーに綴じるメリットは

- ・必要な資料を後から差し込むことができる
 - ・冊子(テストの解答やPUBなど)を綴じることができる
 - ・クリアファイルを綴じればCD等も保管できる
- などが挙げられます。とにかく「必要なものはここに全部ある」状態を作るようにしています。

③手紙やプリントの処理



大量に配られる手紙やプリントは、「休んだのでもらっていません」「なくしてしまいました」攻撃に対応できるようにしています。4月の頭に、「手紙やプリントは余りが出たら先生に持ってくるのではなく、この段ボールに入れましょう。手紙やプリントをなくした場合は、ここに残部が入っているはずなので、ここから探して自分で持っていきましょう」と、指導しておく、子供がある程度自分でなんとかできるようになるので、対応に時間が割かれることが減ります。

【整理整頓から見える児童理解】

よく教室で、引き出しの中がぐちゃぐちゃになっている子、物をあちこちに出しっぱなしにする子、物を失くしてしまう子がいると思います。整理整頓ができる子とできない子の差は一体何なのでしょう。果たして単なる努力不足なのでしょう。

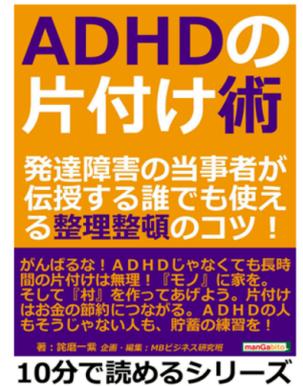
最近よく書店に行くと、発達障害と整理整頓を結びつけた書籍が見られます。これは、脳の特性と整理整頓が

ダイレクトに結びついているからです。ワーキングメモリーや視覚認知が関係していると言われます。では、整理整頓ができない児童に対して「なんでできないの」「ここにはこれを入れなさい」「ちゃんと連絡袋に入れなさい」といった口頭での指導で改善されるのでしょうか。その子に合った支援が必要になってくるはず。私自身の引き出しも少ないので、ぜひ先生方の支援のアイデアをどこかでシェアしたいですね…。

※我々教員は整理整頓ができないからと言って安易に発達障害と結びつけてはいけません。あくまでも脳の特性や偏りがあるという捉え方をしましょう。

【整理整頓おすすめ書籍】

葛原の机の横に置いておきます。『発達障害の僕が食えるようになったすごい仕事術』は単純に読み物としてめちゃくちゃ面白いです。おすすめです。



Share Happy シェアハピ！

【ウィンザー効果】

クイズです。(デデン)褒める効果が高いのはどちらでしょう。

- ①担任が直接児童を褒める
- ②「担任の先生が褒めていたよ」と第三者が間接的に児童を褒める

今回は先生方が意図せずにとっているであろう「ウィンザー効果」を紹介します。ウィンザー効果とは、第三者の声の方が効果的に聞き手に伝わるという心理効果です。直接担任が子供を褒めることよりも、子供を介したり、他の教員を介したほうが褒める効果が高まるというものです。つまり、正解は2番になります。

これは恋愛やビジネスマーケティングのシーンにおいてもよく使われている心理効果だと言われています。



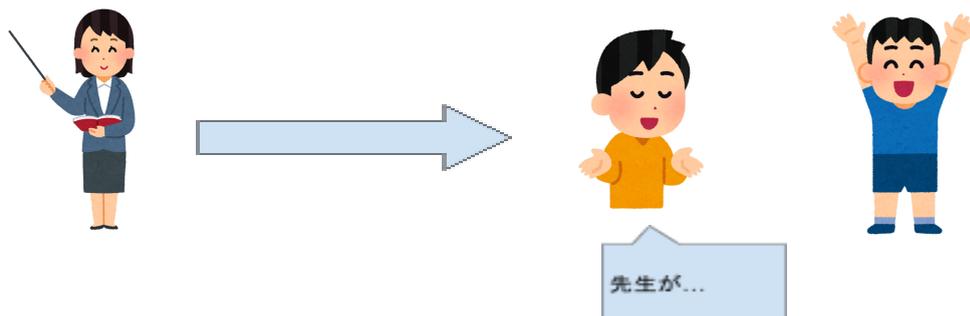
【どんな時に使える？】

どんな時に使えるかいくつかパターンをまとめてみました。

A. 教員→子供(伝達役)→子供

「Bさん、Aさんに「今日掃除すごくがんばってたね」って伝えてもらって良い？」

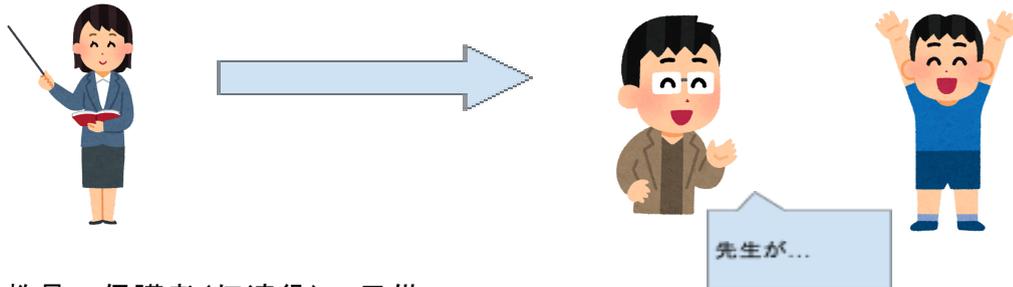
のように、子供(Bさん)を介して伝えると褒める効果が高まります。ただし伝達役は、教員がよく選ばないと「え？なんで私が？」みたいな変な空気になることがあります。



B. 教員→教員(伝達役)→子供

先日、うちのクラスの掃除を見に来てくれていた安原先生が「Aさん、自分の掃除が終わってから床の拭き掃除まで自主的にやってみましたよ」と教えてくれました。すかさず、Aさん呼び、「安原先生がAさんのことを褒めてたよ。自分の掃除だけじゃなくて床までやってくれたんだって？素晴らしいね」と褒めました。今までにないくらいに顔面が緩んで喜んでいたAさんが印象的でした。

このように、教員間で褒める情報を共有することで、より効果的に子供を褒めることができます。安原先生、ありがとうございます！なかよしタイム、クラブ活動などは、先生同士で子供の良いところを共有してウィンザー効果を使える良いチャンスですね。

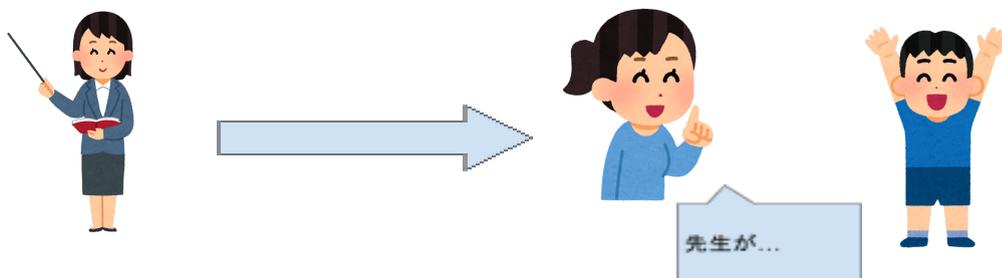


C. 教員→保護者(伝達役)→子供

①電話連絡のついでに

→保護者の方に連絡する時は、連絡のついでに「そういえば電話の件とは関係無いのですが...」と言って必ずその子の良いところを伝えて、ご家庭でも褒めてもらうようにしています。大切なのは「こんな事がんばっています」で終わらせるのではなく、「ご家庭でも褒めてあげてください」と子供にしっかりと伝わるようにするという事です。

②一筆箋で(略)



「チームで子供を育てる」って色々な研修で言われますが、「チームで子供を育てる」って具体的にどんなことかイメージしにくくありませんか？よく情報を共有しましょうと言われますが、情報を共有するのは何のためなのでしょう。

私は、「チームで子供を育てる」ということは、このウィンザー効果を上手にを使って、みんなで子供を褒めていくことではないかと最近思っています。子供のプラスの情報が共有されている職員室はいじめの発生件数が少ないというデータもあるそうです。ぜひ、子供の良い情報を共有してみんなで北小の子供を育てていきましょう。文責 葛原

Share Happy シェアハピ！

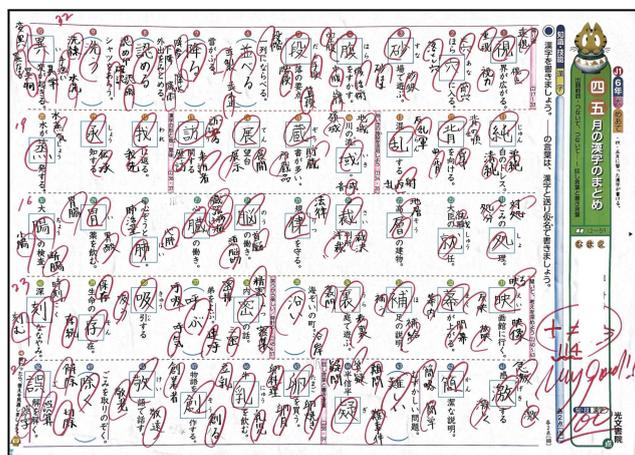
全国では、様々な先生方が多様な実践を行なっています。「これは、実践までにちょっと時間がかかりそうだな...」というものから、「これなら明日からできる！」というものまで本当に様々です。今回は、私が「やってみよう！」と思い、実際に行なったものについてお話します。発達段階や児童の実態を加味すると、全てが「明日から！」というわけにはいかないかと思いますが、指導の参考になれば幸いです。

1. 漢字テストの満点は100点!?

学期に2回ほどある漢字50問テスト。たくさん勉強してきた児童は、15分足らずで全ての解答欄を埋めます。

「先生、いっぱい練習してきたのですぐに終わりました！」

いっぱい練習してきたのならば、その成果を15分で終わらせるのはもったいない！そう思って始めたのが、「**エンドレス熟語**」という実践です。テストに出題された新出漢字を使った熟語を、知っている限りひたすら書くというものです。児童には、「先生にこれだけ練習してきたんだよということをアピールしてね！」と伝えます。また、注意として「全ての解答欄が埋められて、見直しも終わったら始めてね！」と言います。勉強してきた児童ほど、必死になって熟語を書きます。唯一のデメリットは、丸つけの時間が通常の1.5倍ほどかかることです…。



2. 文字認知力を高めたい...!

昨年度のクラスを担当した際に、一部の児童の「正しい文字を認識する力」に課題を感じました。当初は、正しい文字を隣に書いて書き直すように指導をしていましたが、ある時ふと気がつきました。

(これ、自分自身の間違いを見つける力が高まっているだけで、児童の文字認知力は成長しないのでは...)

そこで、取り組んだのが、「**マイナス20点ルール**」というものです。漢字小テスト(10問テスト)での実践です。児童に伝えることは、以下の3点になります。

- ①テストが終わったら、ドリルを見ながら自分で丸つけをします
- ②あっていた場合は○、間違っていた場合は✓をつけて隣に正しい漢字を書きます
- ③1問10点ですが、このあとチェックをした際に、もし間違っているものに○がつけられている場合、倍の20点を減点します

これらを児童に伝えてから、漢字テスト+丸つけを行います。もちろん、児童の丸つけの後には教師側で再度丸つけをすることになるのですが、この一手間を加えることで児童は食い入るようにドリルとにらめっこしながら丸つけをします。ちなみに自分のクラスでは、このルールで導かれたクラス平均が80点を下回った場合、次回から1問間違いにつき1ページ練習というルールを採用しています(なかなかハードですが、これは児童が決めたルールです)。成績に反映させる際には、学年との足並みを揃える必要があるのでこのルールは適用せず得点集計をしています。昨年度1年間続けたのですが、今年持ち上がった児童(10人)の昨

年度と今年度の50問テストを比較すると、平均21点上がっていました。もちろん、これだけが要因ではないと思いますが、文字をしっかりと認知する習慣は身についたように感じます。

3. 「メタ認知力の向上」こそ学力向上への近道

5年ほど前に読んだ雑誌に書かれていた言葉です。当時は言っている意味がいまいちよく分かりませんでした。が、児童の自主学習ノートをじっくり読むようになってから少しずつ意味が分かってきたように感じます。学力が高い児童におおむね見られる傾向は以下のものでした。

- ①自身の学力を客観的に見つめることができる
- ②ウィークポイントを克服するための学習方法を知っている
- ③テストの結果から課題を見出し、次回へ生かしている

どれも、学習に関するメタ認知力が不可欠ですが、まずは③の力を身につけさせたいと思います。テストが終わった後、すぐに次へと移るのではなく「**振り返りシート**」を書かせています。おもに学習の「質」と「量」に着目して振り返りをさせます。注意点は、「**自分の能力(頭の良さ)**ではなく、**当日までの準備**」を振り返らせることです。慣れてくると、シートを用意しなくても自学で分析する児童が出てきました。

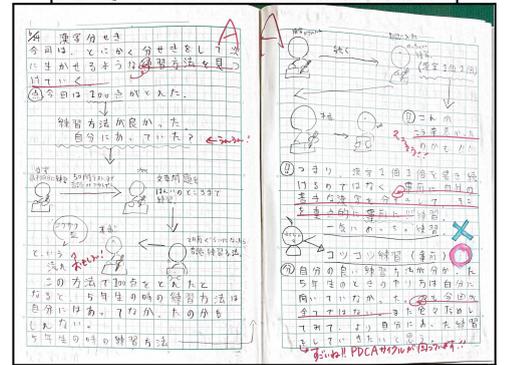
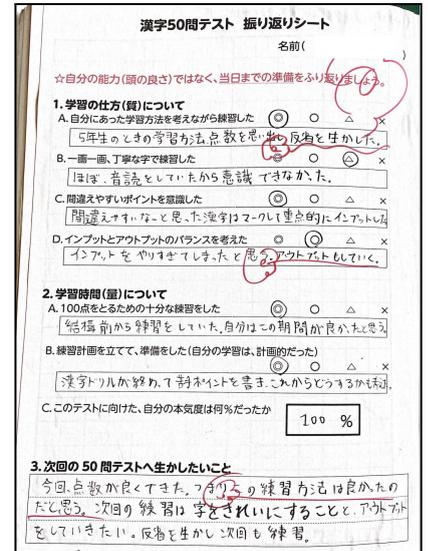
また、①の力の向上を目指し、算数では「**マサバチェック**」という実践を導入しています。マサバとは、**マル、サンカク、バツ**の頭文字です。テストの見直しの際に、以下の観点で問題番号に○、△、✖をつけさせます。

- ・・・これは、合っている！自信あり！
- △・・・自信がないけれど、多分あっている。
- ✖・・・間違っている。勉強不足だった。

この実践を行うと、「え、絶対正解だと思ったのに！」や、「バツをつけたけど、正解だった」というような声が聞こえてきます。ねらいは、「**学習に関するメタ認知に修正を加える**」ことです。この実践を導入してから、自分の学習の特徴を進んで見直す児童が増えたように感じます。

「自分では正解だと思っていても、間違えていることが結構ある。」
 「次回は、理解しているかしっかり確認してからテストにのぞむ。そうすれば、もっと自信をもってテストができる。」

自分の能力を正しく捉えることで、必要な勉強量、最適な学習法、学習上の強みや弱み等が分かるようになります。これが分かり、次の「**自己をコントロールする段階**」へと移行していくのかなと思って児童を見ていますが、とても難しいのでまだまだ勉強中です。ぜひ、みなさんの実践も教えていただけると嬉しいです。



Share Happy シェアハピ！

今回は、自主学習に関する実践をいくつか紹介したいと思います。

1. 宿題の見直し

今年度から、6年生では計算ドリルと漢字ドリルは学校で行い、宿題については自主学習に一本化しました。宿題については様々な考え方がありますが、個人的に宿題は大人でいうところの残業だと思っています。本来学校で理解・習得・定着すべきものを家に持ち帰ってやるという感覚です。私達自身を振り返ってみると、確かに家で残業をすることもしばしばありますが、基本的には「**自分の興味を持ったことを追究**」したり、「**自分に足りない部分を補う勉強**」をしたりすることが一般的なように感じます(最近、フクロモモンガと育児に関することが検索履歴を占めています)。宿題を「**自分磨きの時間にしてほしい**」「**主体的に取り組める、意味のある時間にしてほしい**」という願いを学年の中で共有し、6年生ではこのようなやり方を採用しました。

自主学習の取り組み方については、以下の通り学年でルールを統一しています。

- ①学習した時間を書くこと(例 15:30~17:00)
- ②今の自分に必要だと思う学習を、毎日最低2ページ行うこと
- ③その日の学習の「計画」と「分析・振り返り」を必ず書くこと

自学の進め方については上のルールに加えて、葛原祥太先生が考案した「**けてぶれ**」を導入し、アウトプット中心の学習の際にはこのやり方で進めるように指導をしました。また、インプット中心で行いたい場合は、「**けれふ・けれぶ**」で進めています。まずは、自学の正しい型を身につけ、これ以上に良い方法に出会ったら卒業していいと伝えています。



このシステムを始めてまだ3ヶ月ですが、以下の力に変化が見られました。

- ①先を見据えて「今自分は何を勉強すべきか」を選択・判断する力
- ②結果を出すための学習法を考える力
- ③学習量を自分でコントロールする力

もちろん全ての児童が全ての力を身につけたわけではありません。また、6年生という発達段階だからこそできる部分も大きいかもしれません。大切なのは、「宿題＝作業」ではなく、「**宿題＝自分磨き**」というイメージを植え付けていくことかなと思います。作業になると、どうしても「いかに早く終わらせるか」「いかに楽をして終わらせるか」ということが思考の中心にならざるを得ません。過去に答えを見て宿題を終わらせていた児童に何人も出会いましたが、その子にとって宿題とは作業だったのかな...と今更ですが当時の宿題システムを反省しました。

2. 自主学習のモチベーション

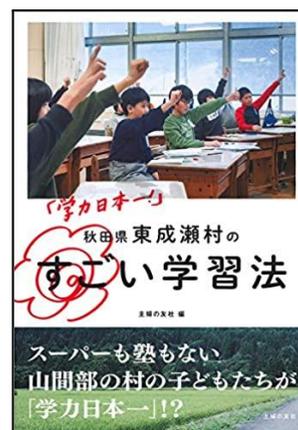
初めは勢いよく自学をスタートする子供達も、1ヶ月を過ぎた頃からその熱量に差が生まれ始めます。この課題を解決し、自主学習のモチベーションを保つためにいくつかの実践を行なってきました。その1つが「**自学タワー**」です。教室の一角を使って終わった自学ノートを積み上げていくというとてもシンプルな実践です。何冊積み上がったのか分かるように札を作り、終わった児童からノートを積んでいきます。自学の内容に悩んだ児童は自由に見ても良いことにしておく、自学の質が高まる子もいました。



また、今年度は行なっていませんが、昨年度は「ぐるぐるノート」という取り組みを行いました。これは、秋田県の東成瀬村で行なっている実践です。いわゆる「交換ノート」を自学ノートに応用したものになります。5人1組を作ってノートを1冊渡し、週に1回1ページの自学を行なってくるというものです。この取り組みがもたらしたメリットはとて多かったです。

- ① 友達の学習方法を知り、真似ることができる
- ② 友達が頑張っているので自分も頑張ろうというやる気につながる
- ③ グループ内で「〇〇さん、この問題の解き方解説してください」といった学び合いが生まれる

ちなみに、担当曜日は習い事等を加味して自分たちで決めるように伝えました。自学が苦手な児童には金曜日担当を勧め、土日を使って1ページ頑張るように声かけしました。



さらに、今年度はまだ行っていないのですが、昨年度は2ヶ月に1度「**自学ノート展示会**」を行いました。これは、友達の自学ノートを自由に見て回るという簡単な取り組みです。始める前に、「恥ずかしくて見られたくないページには付箋を貼りましょう」と声をかけ、そのページは見ないことを約束させます。20分ほどあればできる取り組みですのでモジュールなどにオススメです。この展示会を終えると、「友達は、自分が頑張ったと思っていた量の何倍も勉強している」「どうして〇〇さんがいつも漢字テストで100点を取っているのかが分かった」という声が聞こえてきました。

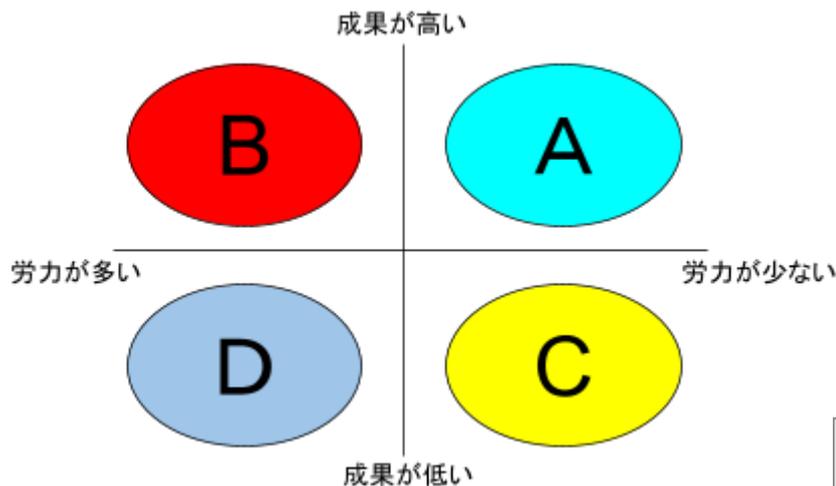
自主学習は、どうしても児童と教師の間で完結してしまいがちですが、私はこれを横に広げることが大切にしています。一人一人の学び方をクラスでシェアするというイメージです。自主学習を通して学力を向上させることはもちろん、様々な学び方に出会い、最も自分に適した学習方法を見つけ出してほしいなと思って日々子供達の自学ノートを楽しんで見えています。

最後になりますが、この森川正樹先生の自学に関する本は、子供達の反応がとても良かったです。これは国語や算数といった教科に関するものではなく、自分が興味を持ったことを追究してみるといった「知的好奇心をゆさぶる自学」を集めた本です。職員室に置きますので、ぜひご覧ください。



Share Happy シェアハピ！

【業務改善ネタ②～業務改善マトリクス～】



以前のシェアハピで「生産性」は、「かける労力を減らす」と「成果を上げる」の2つの視点が必要であることについて書きました。今回は、生産性を上げるために「労力」と「成果」の2軸で私達の仕事をマトリクス化して分類してみましょう。

$$\text{生産性} = \frac{\text{成果}}{\text{かけた労力(時間・エネルギー)}}$$

A...生産性高まってますエリア

業務改善において目指さなければならないエリアです。少ない労力で子供を成長させる「仕事の生産性が高い」エリアになります。

B...充実仕事エリア

労力をかけただけ子供が成長するエリアです。教員にとっても「やった感」があるため、充実感も得られます。ですが、ここにある仕事は、質を下げずにかかる労力を減らしてAエリアに送ることを目指さなければなりません。

C...努力仕事エリア

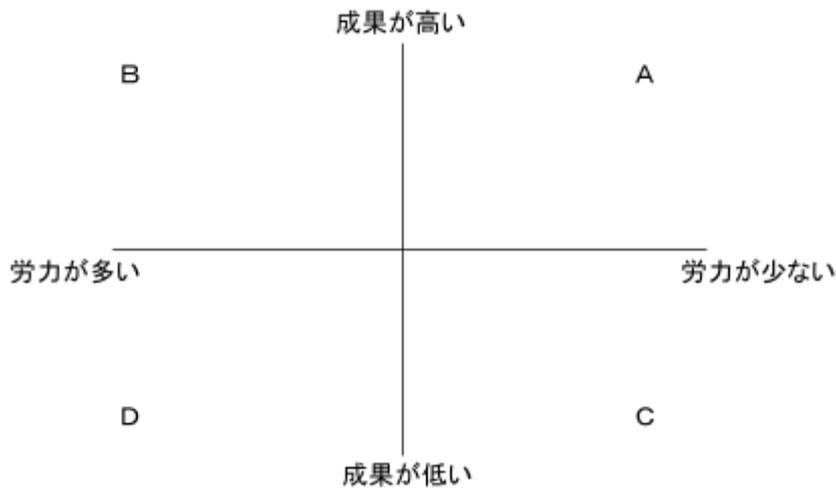
労力はあまりかかっていませんが、子供の成長には繋がっていない仕事です。ここにある仕事は、なんとか努力して子供の成長に繋がったりなくしたりすることが求められます。

D...ムダ仕事エリア

多大な労力をかけているのに子供の成長に繋がらないエリアです。ここに入る仕事は

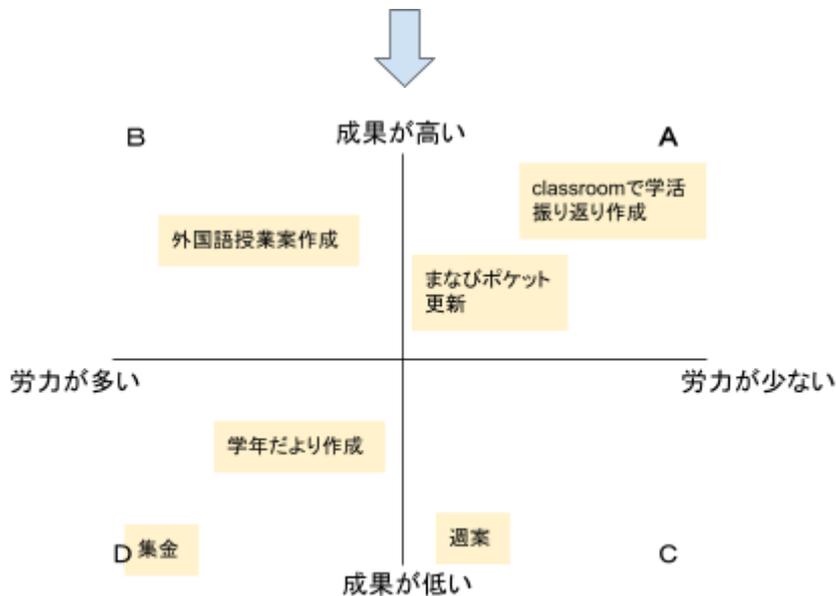
- ①何とかしてなくす
 - ②労力を少なくしてCエリアに送る
 - ③子供の成長に繋げてBエリアに送る
- ことを目指さなければなりません。

【分類してみましょう】



では、以下の仕事をマトリクスを活用して分類してみましょう。

- ・集金
- ・学年だより
- ・週案
- ・外国語授業案作成
- ・まなびポケット更新
- ・classroomで学活振り返り作成



個人の感覚によって分類される場所は変わってきますが、葛原が分類するとこんな感じになりました。

- ・外国語授業案作成
- ・classroomで学活振り返り作成
- ・まなびポケット更新は**ダイレクトに子供の指導に生かされる**ので、**A・Bエリア**に入りました。外国語の授業案はかなり時間を費やして

いるため、Bエリアに入れました。労力を減らしてAエリアに入れるためには、もう少し授業案の枠を工夫するなど、できることがあります。

- ・学年だより作成
- ・集金
- ・週案

は、**子供の指導に生かされていない**ので、**C・Dエリア**に入れました。集金はDエリアの端っこです。何とか私達がお金に触らないシステムを考えたいですね。週案は、入力するだけなのでそれほど労力をかけていると感じないため、Cエリアに入れました。週案を子供の指導に生かせるとAエリアに入れられそうです。何か週案を子供の指導に生かせる工夫を考えてみます。

このように、「**労力**」と「**成果**」の2軸で仕事を分類してみると、「**どうしたら生産性を上げられるか**」という**思考が整理**されます(私は)。時間がある時に、自分のToDoを分類してみると、生産性を上げるアイデアが生まれるかもしれません。お試しください。葛原

参考文献『イシューから始めよ〜知的生産のシンプルな本質(安宅和人)』

『全部やろうはバカやろう(坂本良晶)』

Share Happy シェアハピ！

【1学期の実践】

1学期に実践したことを、いくつかシェアさせていただきます。何かのヒントになれば幸いです。ガチャピン色が強い研修だよりになっていますので、予めご了承ください。

☆その1 ～忘れ物防止率100%！（1学期6-1調べ）～

4月～5月にかけてとても忘れ物が多く、頭を悩ませていました。数年前までは大きな声で「い
いかげんにしなさい！」と叱責していたことも...（反省）。まさに、北風と太陽でいうところの「北風」
のように厳しさだけで何とかしようとしていました。これだと忘れ物が減ってもそれは「教師への恐
怖心」から。今後の児童にとって何の役にも立ちません（自戒）。そこで行ったのが、「**忘れん防止
ホルダー**」。やり方は、明日必ず持ってこなければならぬものを連絡帳にメモし、写真のような
キーホルダーをランドセルにつけて帰るだけ。約束事は、

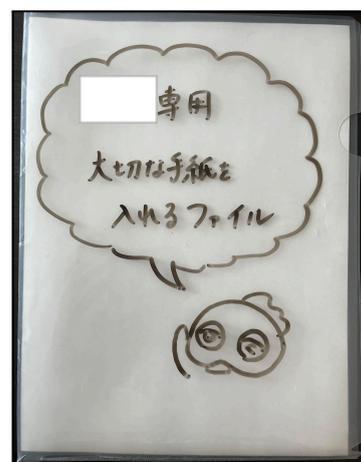
- ①家でキーホルダーを見た瞬間に持ち物を用意をし、絶対に後回しにしない
- ②つける時には必ず教師に声をかける
- ③次の日に、必ず返却する

の3つです。キーホルダーと持ち物を紐づけ
ることで忘れ物を防止する効果がありまし
た。なかには、家で保護者の方が「それ何？」
と聞いたことで思い出したという児童もいまし
た。児童が楽しみながら持ち物を忘れないよ
うにしていたのが印象的だった実践です。



☆その2 ～手紙の管理力アップ！～

配付物の管理が苦手で、大切な手紙が家庭へ渡りづらい児童がいまし
た。様子を観察していると、教科書に挟んだり、一時的に引き出しへ入れ
たり、パンパンに膨れ上がった連絡袋に入れたり...。何とかしてあげたい
と思ったのですが、なかなか良い案が思い浮かばず...。ひとまず近くに
あった自分のクリアファイルに、「**〇〇専用 大切な手紙を入れるファイル**」
と書いてプレゼントしたところ、次の日に「先生、渡しました」と報告しに
来てくれました。それからは、こちらから指示をせずとも配られた手紙はす
ぐにそのファイルへと入れるようになりました。特別感が心を動かしたので
しょうか。理由はわかりませんが、一定の成果が表れました。



☆その3 ～おさらば！名札のつけ忘れ！～

登校した後には、名札をつける。6年生になってもなかなかできない児童がいます。朝名札入
れを見ると、必ずその子の名札が残っていて、毎朝「名札付けて！」と声をかけていました。

ある日、どうしても気になったのでその児童を呼んで、インタビュー調査をしました。

花岡「名札ってどうしてつけるか分かる？」

児童「みんなに名前を分かってもらうためです。」

花岡「でも、学年のみんなはあなたの名前知ってるよ？」

児童「他の学年とか先生達は知らない人もいるかもしれないので。」

花岡「ってことは、名札はつけたほうがいい？」

児童「はい。」

心の声(なるほど。つけなくていいと思っている訳ではないのか...)

花岡「名札がつけられない理由って、何だと思う？」

児童「朝来て名札入れを見ることを忘れてしまう。」

花岡「朝登校したらすぐに名札入れのところへ行くっていうのは、意識できる？」

児童「たぶん、忘れちゃうと多いと思います。」

花岡「なるほど。朝、自分が必ず見る場所ってある？」

児童「ロッカーとか、引き出しの中です。」

花岡「OK！んじゃ、これ貸し出します！」

対話を通して、「毎朝必ず名札のことを思い出すシステム」を作れば解決しそうだということが分かったので、この子だけ名札の保管場所を「名札入れ」から「引き出しの中」に変更しました。ただ引き出しの中に入れるだけでは紛失してしまったりつけ忘れてしまったりする可能性があると考えたので、机の中に「違和感」を作る方法を模索しました。そこで閃いたのが、私がお気に入りを持っていた「小物入れ」。この一際目立つ小物入れを貸し出し、その中で保管するように伝えました。これがきっかけとなり、翌日からその児童は毎朝名札を付け忘れることなく1日をスタートするようになりました。

目的は「名札入れから名札をとること」ではなく「名札をつけること」。保管の仕方を柔軟に変えた結果、一定の効果が見られました。



【最後に】

夏休みに、職員室に置かれていた様々な本を読みました。多くの本の中に「個別最適化」という言葉が書かれており、今教育の世界で最も大切にしなければならない考え方の1つであると感じました。目的は明確に、手段は柔軟に。2学期も一人一人の児童の特性に向き合っていこうと思いました。ぜひ、効果があった実践などがありましたら教えていただくと助かります。文責 花岡

Share Happy シェアハピ！

【残り時間でできる！ショートレク5選 Part1】

今年も、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、新学期早々の子供達はどうしても長期休みムードが拭えません。「よし！切り替えて勉強がんばるぞ！」というよりは、「勉強かあ、家でぬくぬくしていたいな...。」というのが正直なところだと思います(私もそうです...)。そんな時、短時間でできるレクの引き出しがあれば、メリハリをつけて勉強に取り組めるだけでなく、「やっぱり学校の方が楽しい！」と思ってもらえるはず！ということで、今回は授業の残り時間でできるショートレクをご紹介します。

1. ジャンケンチャンピオン(低～中学年向け) 所要時間:3分

シンプルイズベスト！担任vs全員のジャンケン大会です！

①「全員起立！クラスで1番運がいい人を決めます。勝った人だけ残ってね。負けとあいこは座ります。」

②次々座っていく中で1人だけ残ったら、
「チャンピオンに拍手！じゃあ次は、先生と気が合う人を決めます。あいこの人だけが残ってね。」
⇒「すごいね！テレパシーが使えるのかな！？気持ちを通じ合ったね！拍手！」

③「最後はクラスでいちばんやさしい人を決めます！先生に負けてくれた人だけ残ってね。」
⇒「先生を勝たせてくれて、ありがとう！拍手！」

2. 宝物はなに？(低～中学年向け) 所要時間:3分

みんなで決めた宝物を、拍手の強さで伝えるゲームです！

①鬼を1人決め、廊下で待ってもらう。その間に、教室にあるものの中から「宝物」を決める。(例えば、黒板けし)

②鬼は宝物を探して教室を歩き回る。それ以外の児童は鬼が宝物に近づいたら強く拍手、遠ざかったら弱く拍手をして伝える。

③鬼は拍手の強弱をヒントに宝物を当てる。鬼が答えられるチャンスは、3回。

3. O書きリレー(低～高学年向け) 所要時間:5分

黒板とチョークだけで、思い切り楽しめるゲームです！

①グループを作る(1チーム4～8人程度)。

②グループに1本チョークを渡す。これが、バトンの代わり。折ったら失格。

③制限時間2分以内で、より多くのOを書いたチームの勝ち。ただし、次の人は前の人を書いたOを囲まなければならない。また、Oが途切れていたり、内側のOの線に触れているものはカウントしない。



4. ナンバーズ(中～高学年向け) 所要時間:5分

オンリーワン&最小の数字で、ただ一人の勝者を狙うゲームです！

- ①1～15の中で好きな数字を選び、メモさせる(1が一番強い)。
※実態や人数に応じて、15という数の幅を20や25に広げてもいいと思います！
- ②担任が15からカウントダウンしていく。子供たちは起立し、選んだ数字の時に手を挙げるようにする。2人以上が手を挙げた場合は失格となり、着席。1人だけだったら、暫定の勝者になる。
(私は、暫定勝者に教師用のいすを用意し、偉そうに座ってて！と言います。とても盛り上がります！)
- ③「1」までカウントダウンを続け、オンリーワン&最小の数で手を挙げた児童が最終的な勝者。

5. いいセンスいまSHOW(中～高学年向け) 所要時間:10分

ちょうどいいセンスが試されるゲームです！高学年鉄板レク！

- ①紙を配る。児童は、教師からのテーマを聞いてイメージした数を書く。制限時間は、15秒。
- ②グループ(5～6人)で答えを見せ合う。
最大値、最小値を書いた児童:0ポイント それ以外の児童:1ポイント

【テーマ例】

- ・ドラえもんから秘密道具を1つもらえたとしたら、どこでもドアと答える人は何%？
- ・ポテトチップスに入っているポテトの数は、何枚？
- ・北小の図書室にある本は何冊？
- ・贅沢な食事って何円？
- ・じっくり煮込んだカレーとは、何時間煮込んだもの？
- ・おじさん。何歳？
- ・おじいさん。何歳？
- ・きれい好きとは、1週間に何回掃除をする人のこと？
- ・〇〇さんが今までに電車で席を譲った回数は、何回？(クラスで優しい人キャラの人の名前を入れる)
- ・ちょっと遅れます！の“ちょっと”って、何分？
- ・小学〇年生がもらえるお年玉の総額はいくら？
- ・令和は、何年まで続くでしょう？
- ・「昨日、めっちゃ勉強したわ～！」って、何分(何時間)？
- ・目玉焼きにはしょうゆをかけるという人は、全国で何%？
- ・マックに行って、ポテトを買う人は何%？
- ・〇〇さんが、レシピを見ずに作れる料理は何種類あるでしょう？(クラスで料理得意キャラの人の名前を入れる)
- ・1週間宿題なし券が売っています。いくら？
- ・必殺技アルティメットサンダーの破壊力が1万だとしたら、超必殺技エターナルギャラクシーマキシмумファイヤーの破壊力はいくつ？

このゲームをやると「先生、〇〇ですか？」というような質問をしたがる児童が出てきますが、「あなたのセンスに任せます！」と切り返すと、よりおもしろくなります！